光ガ丘中だより～光あふれて～　R８年度　９月号

考えよう

校　長　　井　川　勝　博

40 日以上に及ぶ暑い夏休みが終わりました。始業式では、多くの生徒の元気そうな顔を見ることができ、安心しました。この 40 日間で急激に身長が伸びた生徒もいます。廊下であいさつをするときに、「だいぶ伸びたなあ」と一目見て分かる生徒もいます。外見だけでなく、心も大きく成長したことを期待しています。部活動を引退し、自分の時間をたくさん持つことができた人もいたことでしょう。特に 3 年生は、その時間を勉強に費やしたという人も少なくないはずです。始業式の翌日からは実力テストでした。夏休みの努力の成果を、十分に発揮することができたでしょうか。

始業式では、この 2 学期をどのように過ごしてほしいか、その思いの一つを話しました。それは、「人の話を聞くこと」と、その後のことについてです。

通常の人は「人の話を聞きます」。しかし、三流の人は「人の話を聞かない」のだそうです。本校の生徒の皆さんは、本当に素直でまじめな人が多いので、「人の話を聞かない」ということは、ほとんどないと思います。むしろ、「人の話をしっかり聞く」ことができる人が多いのではないでしょうか。単に「聞く」のと、「しっかり聞く」のとでは、大きな違いがあります。相手の話に耳を傾け、内容を理解しようとする姿勢は、本校生徒の皆さんの大きな強みであると思います。しかし、それだけではありません。より大切なのは、その後です。

一流の人は、「人の話を聞いて実行する」のだそうです。話を聞いて終わるのではなく、実際に行動に移すことが、一つの大きな分かれ目になるということです。ただ、私は単に「やる」だけではなく、「やりきる」ことも大切だと考えます。始めることはもちろん大切ですが、途中でうまくいかないことがあっても、最後まで粘り強く取り組むことに、大きな価値があります。

そして、超一流の人は、「人の話を聞いて工夫する」のだそうです。人の話を素直に聞き、まずは実行してみる。そして、さらに「どうすればもっとよくできるだろう」と考え、自分なりに工夫する。つまり、工夫をするための「考える」ということを大切にしてほしいと思っています。

そこで、2 学期の本校生徒への願いの一つを、「考えよう」としました。自分を高めるために、しっかり考えてほしい。本校をより素晴らしい学校にするために、しっかり考えてほしい。周りの人のために、考えてほしい。

そして、「頭」で考えるだけでなく、「心」でもしっかり考えてほしいと願っています